

作成: 芝崎

80. 方言に関する思い出篇: 日本人同士でも外国人と話している感じなのか不思議な世界

- (1) 両親/私 3 人で浦和でタクシーに乗り、運ちゃんわずかな会話から父が急に「秋田出身?」と聞くと「茨城、でも家内が秋田」だと。奥さんからの訛りが自然としみついてたようだ。両親も千葉の館山で育った。母の両親は秋田出身。父は母の実家では、祖母と妹の旦那は秋田弁で、特に彼らと飲んだ時は秋田弁のみ、父はそんな状況の中では異国にいる状態。何を話しているか珍紛漢だが、その状況で秋田弁の抑揚、標準語との差異を耳で掴んだようだ。秋田に住んだ事がある母と私はその微妙な差異に気が付かず。(笑)
- (2) 母の実家に私が預けられ、秋田弁の世界に入り込んだ。秋田弁を上手く駆使できないが、意味はわかるように。父が来ると、私をそばに呼び、彼らは何を話しているのか通訳せよと。父は方言の世界から開放され、会話に参画できた瞬間であった。それが唯一の親孝行👉。それまでは母の姉妹は秋田弁も標準語も OK なので、何とか保ってきたが、父が話す内容は秋田の叔父たちはわかるが、叔父たちの話は父には伝わらず、まさに一方通行の世界。
- (3) 日本における方言では、地域における仲間意識と共にソフトに受け入れてくれる寛容さがある。ただ、上海に行った時、彼らは一言話すとその人が上海人であるか否かわかるらしく、明らかに上海人でないとわかると閉鎖的になり、対応が変わるという話を聞いた。このような世界もあることに驚く。まさに「言葉の壁」の難しさ👉。

方: ほっとおいても自然とつながってゆく、**う**まくしゃべれなくとも仲間になれる

言: **言葉**を通して、段々と自然とわかってくる不思議なもの

は: はるかに標準語とかけはなれた言葉もある、例えば、山形/米沢では「おしょうしな」という方言があるが、これは「ありがとう」という意味、訛ったものでないので不思議

ソフト: **そ**っと、**ふ**と、**と**つぜん、方言の意味はわかると、地域の仲間入り👉。

➡ **放言高論**ではなく、**方言**は地域を結び付ける潤滑剤として大事👉。

言葉は木の葉のように飛んで行き、広がり多くの人の輪になることを切に願いたい。



以上